

取組の柱④：「海」から「空」へ広がる安全保障・安全利用の取組

事例④⑦：海洋状況把握（MDA）の強化

1. 基本的な考え方

●シーレーン全体の安全を確保し、法の支配に基づく「自由で開かれ安定した海洋」を実現するためには、各国間の海洋状況把握（MDA）の強化が不可欠であるとの考えのもと、我が国は、MDAに関する能力構築支援や装備・機材の供与等を実施してきた。

●近年、海洋安保・海上安全における人工衛星や人工知能等の先端技術の活用に対する国際的関心が高まっており、同分野における我が国の国際協力も強化されている。

⇒ 伝統的な能力構築、装備・機材供与と先端技術を組み合わせたインド太平洋地域における各国のMDA能力の向上のための国際協力を主導することにより、「自由で開かれ安定した海洋」を維持・強化する。

2. 具体的な取組

●海洋状況把握のためのインド太平洋パートナーシップ（IPMDA）への積極的関与

●友好国との覚書等に基づく情報交換

●シーレーン沿岸国等に対するMDA能力向上支援

（例）UNODCを通じたMDAスクールへの協力、ODAによる巡視船・レーダー等MDA関連資機材の供与、ASEAN地域におけるVTS（船舶通行支援業務）要員の育成

●海洋状況表示システム（海しる）の展開を通じた情報共有の促進、能力構築支援

●国際アルゴ計画推進に係る漂流フロート等の展開、全球の海洋環境把握と変動予測

（例）アルゴフロート、大深度フロート、生物地球化学（BGC）フロートの戦略的展開

●基盤的船舶観測の実施

国際観測枠組みに則りつつ、我が国保有研究船舶への乗船及び高精度・多項目共同観測・国際共同観測を実施。

（例）北西太平洋や熱帯太平洋、インド洋における高精度の観測

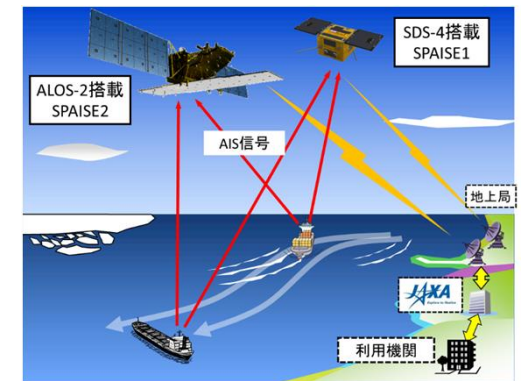
●係留系観測の実施

国際観測枠組みに参画し、太平洋・インド洋などで周辺国とも協力し係留系を展開。気象災害予測などにも貢献する大気-海洋相互作用の長期時系列リアルタイム観測データを取得。

（例）熱帯太平洋での大気-海洋観測用係留システムの展開

●宇宙分野の協力

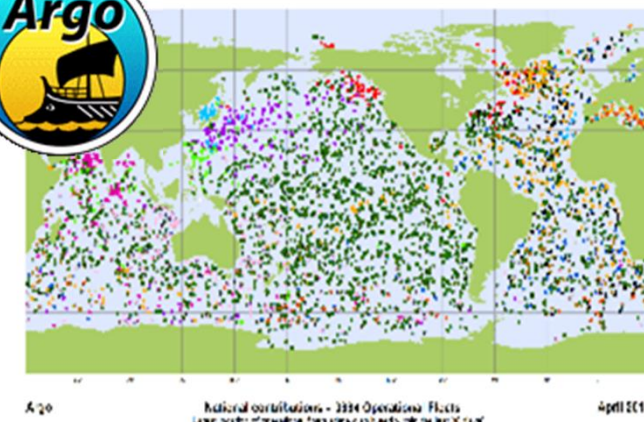
（例）気候変動、防災、海洋分野の能力構築に際しての衛星を活用した支援、電子基準点、気象衛星、地球観測衛星に関するJICAによる研修、準天頂衛星に係る実証実験（フィジー）



衛星搭載の船舶自動識別装置（AIS）



MDAスクール



漂流フロートの国際的展開